
他愛

清井哉

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

他愛

【Nコード】

N1686BA

【作者名】

清井哉

【あらすじ】

何気ないデートの話です。

甘くは無い幸せな話

第1話 見て

その熱い日は久々、彼に会える日だった。
熱い日差しの刺さる中、

大きな期待感と緊張感を持ち合わせて俺は約束のバスに乗った。

バスの一番後ろから二番目、左の奥の座席に彼は居て、

こちらを見るでもなく、ただ無表情に・・・

いや、眠たそうにして座っていた。

俺がその横にずっと座ると彼はチラリと一度こちらを確認までに見て、また窓の外に視線を直す。

俺もそれを気にしなかったのは、別にそれが嫌われている故の行動では無いのは知っていたからだし、
多分、と言うかきつと、眠いだけで

バスの揺れ、流れる風景、涼しい車内、

静かな中に程良く聞こえる少しの話し声、

眠気を誘うには充分だった。

俺だって、一人でこの状況下に置かれれば、眠りそうになるかもしれない。

だが、仮にも今自分の目の前に（横だが）居るのは好きな人間なのだから、眠れるわけがない。

そんな状況でも、バスと時間は進んで行った。

窓の外に、そんなに楽しい物があるの？

こっち向いて。

ねえってば、何処見てんの？

ねえ、ねえ、ねえ。

・・・笑ってよ。

「今日、昼どつすんの?」

彼は後ろを振り返り、数歩後を歩く俺に問いかける。

俺は少し目線を上げて彼の目を見返し、少し間を置いて話し始めた。

「うん、俺はこれと言って食べたい物も無いし何でもいいんだけど、何か食べたい物とかある?」

「いいや? 特には無いな。・・・じゃあファミレスでいいか」

「ん、了解。じゃあ行こっか」

俺は軽く笑いかけ、

再び歩き出す彼の後ろをいつも通り追う。

相変わらず笑わねえな・・・

ま、今んトコ、笑う要素も無いけどさ

そんな事を考えながら、目的の地へと向かった。

「いらっしやいませーっ」二名様で宜しいですか?」

「あ、はい」

「おタバコお吸いになれますか?」

「吸わないです」

「こちらへどうぞー」

淡々と店員とのやりとりをし、案内される彼の後について行った。渡されたメニューに目を通して注文する。

頼んだ食事が来るまでの間、他愛も無い話をして待った。料理が来ると、一緒に食べて、少しの会話を交えた。その間、机一つ分の距離がどうにももどかしかった。

この手で触れたいと思った、もっと見たいと、こちらを見て欲しいと、そう思い願った。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1686ba/>

他愛

2012年1月4日09時47分発行